

# 古城の春は

(昭和七年寮歌)

大槻均君 作歌

中村小弥太君 作曲

## 一

古城の春は老い易く  
延齡草の名に問へど  
流転の法は断ち難し  
友よエルムの鐘を聴け  
再建の秋程なけん  
ペルアスペラと鳴り響く

## 二

今移り来し原始林の蔭  
宿るは未だ浅けれど  
契は深き三百の  
心を交はすこの宴  
暁かけていざ撞かん  
アドアストラの自治の鐘

## 三

妖雲西に漾へど  
視よ落日の悠々と  
大地を旋り淪むかな  
眠る此の城吾も亦  
醒めての生命培はん  
四大の荒び明日あれば

## 四

厳寒凍る極北に  
霧立ち騒ぐ曙の  
光を担うて起たるとき  
際涯もなく寄せ返す  
世紀の波濤は狂へども  
既倒にかへす力あり

## 五

竜舵岸打つ大洋の  
今人生の船出かな  
白帆高くはためきて  
正気をはらむ若人の  
理想の船は不壊にして  
さかまく苦海を永遠に航く